

上三川 近代化の歩み

〜明治維新から戦前まで〜

道路交通網の整備

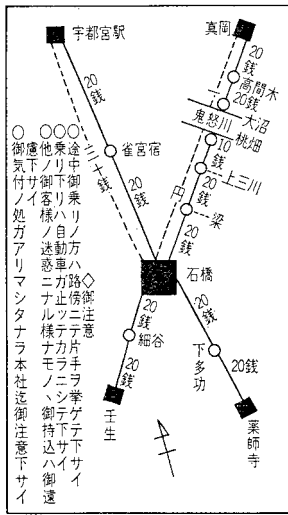
先月号で紹介した鉄道の発達は、まさに物流の近代化のシンボルでした。しかし、鉄道を敷くためには、多くのお金を必要とするため、隅々まで作ることはできません。例えば上三川町から鉄道に乗るならば、石橋駅や雀宮駅まで道路で行く必要がありますし、鉄道では行けない場所、たとえば真岡市などに素早く行くならば、道路を整備する必要があります。ました。

道路交通網の整備は、明治新政府の殖産興業政策を推進する上で重要な政策でした。しかし明治初期は、江戸時代の街道が踏襲され、修繕費用も一般の人々のお金で行なわれるなど、大きな改善は行なわれませんでした。明治時代の末には、国道・仮定県道・一等里道・里道というように重要度での格付けも行なわれ、行政による管理も行われるようになりました。このころには、現在とほぼ同様な主要道路網が形作られています。

道路網の発展に伴い明治時代には各種の車が発達します。ここでいう車は自動車ではなく、馬車・人力車・大八車などのことです。これらは人を乗せるためにも使われていましたが、ほとんどが荷物を運ぶためのものでし

た。ちなみに、現在の宇都宮市を含めた河内郡内の昭和元年の各種の車の台数を見ると、乗用馬車8台、荷積馬車1、991台、荷車2、748台、人力車69台、自転車9、112台と、今では見られない種類の車がたくさん使用されていました。ちなみに自動車はわずか23台のみであり、現在とは比較にならない数です。

このように、各種の車が発展すると、これを使って営業を行なうものも多くなりました。明治の初めに主流だった人力車は、鉄道の開業とともに大幅に増加しました。しかし、大正時代以降、自動車が普及すると急速に衰退し、昭和10年に町内にはわずか4台を残すだけでした。人力車に換わり台数を伸ばした自動車は、乗合自動車という形で、一般の人々に利用されるようになりました。大正15年には上三川町内にも石橋〜宇都宮間、石橋〜薬師寺間、石橋〜真岡間の路線が運行開始し、昭和16年には、更に石橋〜上三川〜東汗間、宇都宮〜屋板〜上三川間、宇都宮〜雀宮〜東汗間の路線も運行しており、人々の生活に、なくてはならないものとなりました。



石橋自動車路線図 (大正15年)

忘報川柳

岡島香宝選

献立が決まらぬままに日が落ちる 大町 小口 達子
 試着室少うし派手を着せられる

紙人形色はあせてもいい笑顔 石田 稲葉 チイ
 看護師のお世話へ和む紙おむつ 上町 上野 広江

ハイキング一と味違う岩清水 上蒲生 渡辺 文子
 愛妻の味へ忘れた母の味 三村 上野久美子

フグ料理紙より薄く技で切る 石田 大塚 ナカ
 甘酒が出来て友呼ぶ祭りの夜 石田 高橋 世津

夕焼けへ明日の予定は決めておく 上蒲生 鶴見 敏子
 お喋りは黙り無口が喋る酒 石田 前原 秀雄

菜園のみどりへいのち労わられ 上蒲生 菅原 妙子

忘報短歌 (投稿)

寝耳に水の汚名を着せられくやくして 稲見 タカ
 挽回の術を考える日々